

令和6年度第1回宗像市総合教育会議議事録

【日 時】 令和6年10月16日（水）午前10時から午前11時25分まで

【場 所】 宗像市役所 本館3階 304会議室

【出席者】 宗像市長 伊豆 美沙子
教育委員 石丸 哲史
教育委員 大庭 多美枝
教育委員 脇田 哲郎
教育委員 野上 順子
教育長 猿樂 隆司

【その他の出席者】 教育部 部長 中村博二、子ども子育て部 部長 早川ちさと
教育部 主幹指導主事 佐々木真理子、笠井康行
教育部 理事兼教育政策課長 飯野英明
教育政策課 指導主事 末崎浩嗣、石川聡、大庭玄一郎
子ども支援課 課長 恵谷英之
子ども家庭センター 課長 有吉富美子
図書課 課長 中野道子
世界遺産課 課長 白木英敏
学校管理課 課長 吉永さつき
地域教育連携室 室長 南宏和、参事 堤久美
学校整備プロジェクト室 室長 仁木完治
教育政策課 主幹兼教育総務係長 安部美代子、教育総務係長 山中茂樹、主任主事 荒木 せりの、主任主事 小田菜奈美
※傍聴 なし

1 開会

【伊豆市長】 皆さんおはようございます。定刻になりましたので、ただいまより令和6年度第1回宗像市総合教育会議を開催いたします。

2 協議事項

(1) 宗像市教育大綱について

【伊豆市長】 本日の会議は、宗像市総合教育会議運営要領第4条第1項に基づき公開とします。

今回の会議では、「第4期宗像市教育大綱の策定について」の1項目を討議議題としております。教育委員の皆様から忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは早速、「第4期宗像市教育大綱の策定について」の協議に入ります。では、事務局より(1)(2)(3)続けて説明をお願いします。

【教育政策課担当】教育政策課の小田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

資料1の2ページをご覧ください。まず始めに(1)～(3)について続けて説明をさせていただきます。

それでは、資料3ページ「7月定例教育委員会での協議結果について」報告させていただきます。1ページめくっていただき、教育大綱策定スケジュールをご覧ください。7月17日に予定をしておりました第1回総合教育会議でございますが、こちらは中止とさせていただき、定例教育委員会において協議をさせていただきました。今回、協議で説明をさせていただきました資料を再度お付けしております。

では、資料7ページをご覧ください。今回策定いたします第4期宗像市教育大綱の期間は、総合計画との整合を図るため、令和7年度から令和11年度の5年間とさせていただきたいと提案させていただき、ご了承をいただいております。次に8ページ、9ページをご覧ください。第4期宗像市教育大綱の位置づけですが、今までと変わらず、総合計画が宗像市にとっての最上位計画となり、この総合計画の教育分野と教育大綱を合わせていくということで進めております。

続いて、10ページをご覧ください。こちらが、協議で教育委員の皆様からいただきましたご意見をまとめさせていただいております。こちらを踏まえまして、事務局案を作成致しましたので、後ほど、協議いただきたいと思います。

次に、「教育に関するアンケート結果について」報告をさせていただきます。今回、教育に関する方針や計画策定にあたり、児童生徒、教職員、保護者・市民の皆様からご意見をいただくため、アンケートを実施させていただきました。非常に多くの方にご協力をいただきまして、全て合わせて、8,426人の方にご回答いただきました。アンケートの分析については、自由記述式の設問については、ユーザーローカルAIテキストマイニングを使用し、ワードクラウドと共起キーワードによる分析を実施しました。

資料14ページをご覧ください。こちらがワードクラウドで分析をしたものになります。自由回答で得た回答からスコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさを図示しています。単語の色は品詞の種類で異なっており、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表しています。単語ごとに表示されている「スコア」の大きさは、与えられた文書の中でその単語がどれだけ特徴的であるかを表しており、文章中で使われる一般的な言葉「今日」や「思う」

「ある」などといった、ごく一般的な単語については、重要ではないため、重み付けを軽くする、いっぽう一般的な文書ではあまり出現しないけれど、調査対象の文書だけによく出現する単語は重視する仕組みとなっています。

次に17ページをご覧ください。こちらが共起キーワードで分析をしたものになります。共起とは、一文（改行や「。」などで区切られた各文）の中に、単語のセットが同時に出現するという意味で、文章中に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図となっており、出現数が多い語ほど大きく、また共起の程度は強い方から順に 太い実線 > 細い実線 > 破線 で描画されています。

それでは、14ページに戻って説明させていただきます。こちらは、4～9年生に「あなたが普段の生活や学校生活の中で、うれしい時や幸せだと思う時はどんな時ですか？」と質問した時の回答をワードクラウドで分析しました。その結果、遊ぶ、友達、話す、褒める、食べる、授業、解ける、部活、家族、楽しいなど、様々な意見があり、子どもたちが幸せだと思う時は、多様であり、ウェルビーイング向上のためには、多様な個人それぞれが幸せを感じられるようにすることが求められています。

次に15ページをご覧ください。こちらは、4～9年生に「あなたは将来（しょうらい）、どんな大人になりたいですか？」と質問した時の回答をワードクラウドで分析しました。その結果、優しい、思いやりがある、人の役に立つや困った人を助ける、親切などの回答が多かったです。この他には、お金持ちやサッカー選手、YouTuber、先生などの職業や賢い、尊敬など様々な大人像を持っていることが分かりました。

次に16ページをご覧ください。こちらは、教職員・保護者・市民の大人に「子どもたちにどのような大人になってほしいですか？」と質問した時の回答です。大人が子どもたちになってほしい大人像は、子どもと同じく「優しい、思いやりがある大人」が多く、大人が子どもたちになってほしいと考える大人像と子どもたちが考えるなりたい大人像が一致しており、思いが子どもたちに伝わっているようです。

次に、17ページをご覧ください。こちらは、教職員にQ1で尋ねた「子どもたちになってほしい大人になる」ために、家庭や地域、学校や社会ができること、必要なことは何だと思えますか？」という質問に対し、他者を理解することや学校・地域・家庭での教育環境の充実や様々な体験や活動、学ぶことなどが必要だと考えているようです。

次に、18ページをご覧ください。こちらは、保護者・市民にQ1で尋ねた「子どもたちになってほしい大人になる」ために、家庭や地域、学校や社会ができること、必要なことは何だと思えますか？」という質問に対し、子どもたちに様々な体験・経験ができる環境を作ることや地域活動に参加、交流すること、子ども

たちを見守ることなどが必要だと考えているようです。このことから、教職員だけでなく、保護者・市民も地域活動に参加、交流することが必要だと思われることが分かりました。

続いて、19 ページをご覧ください。こちらは、4～9 年生に「なりたい大人になるためにしたいことなんですか？」と質問した時の回答です。優しい、勉強、練習など、子どもたちがなりたい大人になるためにしたいことは、なりたい大人像に合わせて多様であり、子どもたちが将来へ向けて頑張る気持ちに溢れていました。

最後に、20 ページをご覧ください。こちらは、4～9 年生に「あなたがなりたい大人になるために、大人にしてほしいことはなんですか？」と質問した時の回答です。子どもたちは、大人に「勉強を教えてほしい、自分たちのお手本となってほしい、応援してほしい」と思っていることが分かりました。

そのほかにも、ほめてほしい、アドバイスが欲しいというような意見もありました。

続いて、教育部ワークショップについてご説明いたします。教育部として「どのような宗像市を実現したいか」をビジョンとして明確にし、その実現に向けたマイルストーンを設定するという事で、全3回のワークショップを実施しております。こちらは、市職員（教育部）が共感思考を用いたワークショップに行いまして、日常業務の本当の目的は何か？からスタートし、部のビジョンとして6案を提案いたしました。こちらも踏まえて、教育振興基本計画のコンセプトも踏まえ、「みんなが活躍するまち宗像」を教育部のビジョンとして設定いたしました。

【伊 豆 市 長】 はい。ありがとうございます。ここまででご質問等ございましたら、お願いします。私としては、15 ページに「市長」がないのが、残念に思います。そして、14 ページにもう少し給食が大きく出てくるような、子どもたちが楽しみにするような給食時間にしていければと、食のまち宗像としては、ちょっと思います。どうぞ皆さん、そのように気軽に感想をおっしゃっていただい
て。では、大庭委員どうぞ。

【大 庭 委 員】 本当にアンケート、お疲れ様でした。大綱の充実のためにアンケートされて、集計等とても大変だったと思いますが、このアンケート実施されて、大綱の中に検討されたことがあったら教えていただけますか。

【教 育 部 理 事】 では、私からお答えさせていただきます。後ほど、教育大綱の基本理念の案をお示しいたしますので、その中でお答えをしたいと思います。おっしゃるように、私たちも想定以上に大変多くの方々にご意見いただきましたし、自由筆記という形を取っておりながら、先ほどご説明いたしました通り、大変私たちも示唆に富む、本当にいろんなことを教えてもらえるような内容でございましたので、

その辺を十分踏まえて、基本理念のご提案を差し上げたいと思います。ありがとうございます。

【伊豆市長】他にございませんか。なんでも結構です。では、脇田委員どうぞ。

【脇田委員】ありがとうございます。17ページに、先生たちは体験活動が必要だと考えているようですが、先生たちの意識は、その体験活動する場はどこだと思っているのでしょうか。

【教育政策課担当】今回、アンケートを集計させていただくにあたって、長文で書いていただいております。体験をする場というのは本当に色々出てきておまして、地域や学校の中の教育活動も含めて、様々な場面が必要だというご意見が非常に多かったように思います。

今回、ちょっと余談にはなってしまうのですが、先生たちが、地域との関わりや地域活動参加が大切だと考えておられて、次のページの保護者のアンケートの結果からも、やはり地域と関わるとか、地域活動に参加する、交流することというのが子どもたちにとって必要だというような意見を非常に多くいただきましたので、それが宗像市のコミュニティ・スクールの成果ではないかと思っております。以上です。

【脇田委員】ありがとうございます。重ねて、コミュニティ・スクール等の充実をやってこられて、小中一貫教育の取組の成果があちこちに出てきているのだらうと思いますけども、例えば子ども会や自治会など、親が忙しいからとか、子ども会費がいるからとか、そういった理由で、参加させないということを知りたりますが、宗像市ではそういうことはないですか。

【教育部理事】これは大変残念ながら、子ども会という活動自体は各地域における自主的なサークル活動であるということから、先ほど脇田委員からご紹介のあったような、保護者の方のご意向で解散という形を取っている地区が大変増えてきているということは、私たちも承知をしております。それが故に、各地域における居場所づくりであるとか、あるいは学校における体験活動、ここを大変重視しております。かたやミニ開発等で人口流入が進んでいる地域もありまして、そこはお子さんたちの数が増えております。そういうところは逆に子ども会活動が非常に活発になっているとお聞きをしております。私たちとしても支援を継続していかなければと思っております。

【脇田委員】ありがとうございます。親子、それから学校の子どもたちを育てていくために何ができるだろうか、自分事として、この取られたアンケートの結果なんか広がっていけばいいかなと思いました。

【伊豆市長】ありがとうございます。では、野上委員。

【野上委員】子どもたちが幸せを感じる時とか、なりたい大人になるために、たくさんこうポジティブなワードが出てきていて、とてもいいことだなと思っていま

す。ただ、やっぱり残念ながら、非行に走ったりとか、不登校になったりとかする子どももいることも現実で、そういう子を1人でもやっぱり出さないとか、そういう風な教育が、もう1人でも取り残さないような、この可能性秘めた子どもたちを育ててもらえたらいいなと思っています。

【石丸委員】先ほど市長ご指摘なさいました「嬉しい、幸せだ」という質問に給食が出ていないということでしたけれども、14ページですね。ここで遊びがバンと一番強く出ていますが、学校生活の中で嬉しい時あるいは幸せだと思う時は、遊ぶ時だっていうのは大変皮肉な答えではありますよね。例えばこの本日お配りいただきましたその資料3の10ページの5ですけども、主観的幸福感を従属変数とした重回帰分析で、友達関係とか教師サポート、自己肯定感、教科への態度っていうところが強く出ていますよね。それで結局、この定量的な分析では、主観的な幸福感っていうのはそういうところに現れているという、これが先にわかっているとすれば、このクエスチョンのところは、そのような問いをすると、うまくこう関連性が出てくるのではないかと思います。だから給食にも出ていますし、美味しいっていうのも出ていますし、その美味しいと思うことで嬉しいとか幸せを感じることもあるでしょうから、せっかく聞かれるのであれば、もう少し問いを狭めて、はっきりと答えが分かるようにテキストマイニングでやれば、結局こういう傾向性は出てきますけども、もう少し細かく検討してやればもっと面白い結果が出てきたのではないかと今思ったところです。以上です。

【伊豆市長】私からもですけど、教職員の先生方のアンケート結果の17ページですが、私は、教職員が嬉しいとか、やりがいがあるというような設問があってもよかったと思います。それと、教職員も若い方から年齢層も幅広いので、教職員だからこそ楽しめたって、もしくは体験できて楽しかったと思えるような体験も必要だと思います。大学を出てすぐ教職員になると、体験する生活や社会経験の幅が、学校とその周りの非常に限られた体験になる場合もあるので、教職員も思い切って楽しめるような、いわゆる研修じゃなくて、全員が同じじゃないものでもよいのではないかと考えております。例えばなかなか忙しくて、映画や観劇、音楽鑑賞、スポーツ観戦などの体験もできていないと思いますので、そういう子どもたちが楽しいと思うようなことも、先生たちにも体験してもらいたいと思います。ウェルビーイングという言葉も、まだ一般的に広く認知されている言葉ではないと思いますので、その言葉の本質がわかりやすいように伝えていくことも大切だと思っています。

【石丸委員】次の協議のところでお話しすべきかと思いましたが、今、市長がウェルビーイングについておっしゃいましたので、この場でちょっとウェルビーイングについて意見を述べさせていただきたいと思います。今回、資料を拝読いたしまして、この教育振興基本計画のウェルビーイングというのは内田教授（中央教育審

議会委員)を中心として大体作られているものと思いますが、そもそもそのウェルビーイングというのがなぜ出てきたかという、OECDの中で、豊かさ、生活の質を表す指標としてGDPだけでは測れなくなってきたというところから始まっています。つまり、お金をどれだけ持っているかではなくて、そういった生活の質を表す概念として、GDPだけではなくて、ウェルビーイングという考え方も必要じゃないかということが出てきたわけです。そこで、内田教授は日本ではかなり幸せとか幸福というのが出てきていて、それをアンケートとか取ると、あなたは幸せですかという問いに対して、本人が幸せだとすればよしとするような雰囲気と言いますか、流れになってはいますが、本人がいいと言えばそれでよしとしていいのかっていうと、そういうわけではなくて、とりわけ教育に携わる人間としては、本人がいいと言えばいいじゃないですかというわけにはいかないと思います。ウェルビーイングというのは本当に難しい言葉なので、簡単に言うと「いい状態」のことを言うわけですが、「いい状態」とはなんなのかという、昔から日本で言われている知徳体がいい状態、例えば体が健やかで心が豊かである、あるいは確かな知識をもっているのがいい状態じゃないかと思います。だから、新しくウェルビーイングが出てきたからと言って、新しいものに安易に飛びつくのではなくて、今までやっていることを、そういった「いい状態」であるかという見方で捉え直すということも必要ではないかと思います。ウェルビーイングには、大きく分けると、児童生徒のウェルビーイングと教師のウェルビーイングっていう両方あるわけです。つまり両方がウェルビーイングじゃないと、学校はウェルビーイングじゃないという考え方であるわけです。その辺りを今回、教育大綱を作っていく際にウェルビーイングという言葉を入れたとしても、決してこれまでのことを否定して新しいことをすることではなく、また児童生徒が幸せだとすればよしとするのではなく、教える側としてしっかりと考えていかないといけないと思いますので、ウェルビーイングはあまりにも大上段に構える、あるいは無理して取り入れる必要はないのではないかと考えております。

【伊豆市長】ウェルビーイングの話が出ましたが、この14ページの中に読書がないのがちょっと残念かなと思います。

学校に行くと、学習の時には教科書で勉強するわけですが、図書館の利用や1人あたりの読書数が宗像市は他の地域よりも高いとか、ここで言うことかどうかわかりませんが、図書館の利用をもう少し広域的にできないかと思っております。図書館が弱っている子どもたちの受け入れ場所、もしくは立ち寄り場所であってもいいと思いますので、図書館の活用も、本を読みに来るというだけじゃなくて、もちろん、調べる学習等で、図書館は活発にされていると思うんですが、1人でいつも図書館に来る子に対して、例えば、図書司書の方などが、こういう面白いものがあるよとか、どういうことに興味があるの?とか、こんな本読んだらどう?というよう

な、それが図書司書さんの仕事と言われるかもしれませんが、図書室や保健室などが子供の相談室のように子どもが少し助けを求めるといふか、SOSを少し発信できるような場所として、今後各校や教育委員会でもご検討をいただいて、図書室の利用の方法を従来どおりではなく、考えてもよいと思います。他の首長さんとお話した時に、今みたいに電子カードでこう図書を借りるといふのもいいですが、私が子どもの頃は、図書カードというのがある、後ろにその本を借りた人の名前が入っていて、誰々さんもこの本を読んだとわかって、ともすると、親の名前を見つけたりして、この学校で人気のある本とか、この10年間で最も読まれた本とか、寂しいという時にはこの本がおすすめですか、というような図書室の活用しているのが、あるといいなと思います。

図書とか、読書という言葉が（アンケート結果に）上がってないので、これからますますデジタル化が進む中で、活字離れが叫ばれる中で、小学生の間に本を読む、読書をするということを宗像市の重点的な、でもそれが押し付けになっては困りますけれども、読書習慣を子どもの頃に身につけておかないと、余計に語彙力って落ちていくと思われるんですね。

それでは皆さん、よろしいでしょうか。次に行きたいと思います。(4) 第4期宗像市教育大綱について協議を行います。事務局より説明をお願いします。

【教育部理事】では、私からご説明をいたします。大変たくさんの方の知見とご質問、ご意見、ありがとうございました。前回の定例教育委員会での協議でもお伝えのとおり、なるべく多くの皆様方からご意見を頂戴して、この5年間の教育分野の指針となる大綱の基本理念を作りたいと申し上げておりました。

冒頭にありましたとおり、まずは総合計画との一致、方向性の一致、それから前回の定例教育委員会でのご協議、それから8月から9月にかけて実施をいたしましたアンケート、そして教育部内でのワークショップ、これらを踏まえまして検討をこれまで進めてまいりました。資料26ページですが、こちらには、教育大綱の位置付けをお示ししておりますけれども、ご説明のとおり、その下の施策まで含めて、総合計画と一致させるということで考えております。それから、教育大綱の基本理念につきましても、総合計画の教育分野におけるその柱の目指す姿とイコールにさせるという考え方でございます。

27ページが総合計画の全体像をお示したものでございますけれども、今のところ、総合計画全体のまちの将来像といたしましては、「世界遺産の海と生きる ずっと住みたいまち宗像 自然を守り、安心を育み、自分らしく挑戦できる」というものが宗像市の、今後10年間の目指すまちの将来像ということで今検討を進めているところでございます。

今回決めたいと思っておりますのは、その下の教育分野における、目標（赤色で記載している部分）で、今仮置きとして、学びを通して1人1人が輝くまち、これ

は現行の教育大綱をベースとして仮置きで入れているものでございます。ここを新しいものに置き換えるということで検討を進めてまいりました。

それでは、事務局の方からご提案をさせていただきます。28ページをご覧ください。基本理念として、「誰もが楽しく学び、幸せや生きがいを感じ、活躍できるまち」、こちらを、教育を通して、目指すべきまちの姿として設定をさせていただきたいと思っております。簡単ではございますけれども、解説を下の方に、各項目で抜粋をしながら掲載をさせていただいております。まず1つは、先ほどご質問の中でも野上委員からありましたとおり、誰1人取り残すことなく、教育を進めてもらいたいというご意見も踏まえております。子どもから大人まで、学校教育に限らず、社会教育、生涯学習の視点も盛り込みますので、子どもから大人まで、誰1人取り残すことなく、楽しく学べる機会を提供する。この楽しくというところを先ほど石丸委員からもありましたとおり、主観的幸福感にとって非常に相関性の高い、重要な要素として、必ずしも成績とか学力といったものとは関連、相関性はそんなに高くないということがこの学習状況調査の結果でも分かっておりますので、友達とか先生方、地域の方々など他者との繋がりが非常に重要な要素である。それから、授業の内容が理解できて、そしてその授業が好きであるということも相関性が高いということが分かっております。

これは私どもの実施したアンケートでもある程度読み取ることができます。石丸委員にご指摘いただきましたとおり幅広い設問になっておりましたので、いろんな要素が混在しており、色々ちょっと見えにくくはなっておりました。また、夏休み明けの子どもたちが友達に会えて、とっても楽しかったという時期に実施したものですから、どうしてもこう遊ぶっていうのが大きくなったのかなとは推測しておりますけれども。いずれにいたしましても、他者との関係ですとか、学びながらそのことが分かる、理解できるということが非常に幸福感に繋がっているということが分かりましたので、楽しくという言葉を入れさせていただいております。

次の「幸せや生きがいを感じ」、ここがまさにウェルビーイングの向上を目指しているところでございます。教育や学びを通じて、幸せ、それから、先ほど石丸委員からもありましたとおり、自分自身だけの幸せではなくて、他者への貢献を通じて生きがいを感じる。また、長期的な視点でもって、生き甲斐のような幸福感を感じるということで記載をさせていただきました。最後の「活躍できる」、こちらでも誰1人とり残さないというところとも関連をしていますが、地域を担い、また未来を作る人材の育成、これは教育振興基本計画にもあります、持続可能な担い手、未来の作り手を育成するという考え方、それから、その機会を私たち行政として、環境を整えて提供するということの決意の表れとして、この誰もが活躍できるということも取り入れさせていただきました。それから、基本理念だけでは表せなかった、脇田委員からもありました地域ですとかそういった分野というのが盛り込み

くかったというのがありますので、この基本理念に向かって、実施していく時の重要な視点として、この2つを記載させていただきたいなと思っております。

1つは、「多様な主体による連携」これはまさに、地域、家庭、学校、またそれ以外にも色々な企業さんですとか団体ですとか、そういった方々との連携というものを1つ重要な要素として視点に盛り込みたいと思っております。

それからまた、ここもまさに脇田委員、それからアンケートの中でも現われておりました経験や体験、これを通じた学ぶ機会の提供というのは、宗像市も子ども大学等実施しております、宗像の教育環境の特徴的な要素の1つであると考えておりますので、経験や体験というものも1つ視点として盛り込みたいと思っております。この基本理念、そして2つの視点を教育大綱に盛り込むということで、一旦事務局の案としてご提示をさせていただきます、この後、協議の時間として皆様の忌憚のないご意見を頂戴したいと思います。よろしく願いいたします。

【伊豆市長】はい、ありがとうございます。次期宗像市教育大綱について、説明の中にもございましたけれども、宗像市総合計画を現在策定しているところでございます。

目指す将来像をはじめ、分野ごとの施策についても現在素案を作成しております。本日、皆様方からいただきましたご意見は、教育大綱並びに総合計画の策定に生かしていきたいと思っておりますので、どうぞ皆様方のご忌憚のないご意見をお願いいたします。

【石丸委員】はい。28ページを拝見いたしまして、総合計画と教育大綱との整合性について集中して見ておりました。私は、この左右が一緒じゃないといけないと当初思っておりましたが、これを見て、なるほど、例えばこの教育大綱を見て、これが総合計画のビジョンに向かっているという方向性があればいいなと、今、思ったところです。すなわち、誰もが楽しく学び、幸せや生きがいを感じというようなまちだったら、ずっと住みたいだろうなと思えますし、そういうことであると安心ということにもなるでしょう。で、挑戦できるってことで、活躍できるまちということで、なるほど、教育大綱に書いてあるところが結果としてその総合計画のビジョンを達成するのだと思いましたので、このところはよろしいんじゃないかと思ったところです。

それで、ウェルビーイングに関してなんですけども、やはり先ほど言いましたように難しい部分がありますので、例えば日本、日本語的に言うとウェルビーイングって、例えば総合計画で言うと、安心というような言葉がウェルビーイングに繋がるのではないかと思うんですね。安心できないというのはウェルビーイングじゃないと思うので、そういう意味では、安心というものを育むというのはウェルビーイングに向かっているということでもありますので、ダイレクトにウェルビーイングの定義である幸せとか生き甲斐とかっていうところ、これでもいいんですが、あまり

無理なさらずに、総合計画と合うような、総合計画だって、これもウェルビーイングを目指しているわけですから、そういう意味では、教育大綱だからウェルビーイングを目指さないといけないというわけでもありませんので、総合計画の中にも見れる、教育大綱の中で見れるような、そういう全体を通して、総合計画と教育大綱には共通するキーワードがあって、そのひとつがウェルビーイングですというような、その程度でよろしいじゃないかと思ったところです。以上です。

【伊 豆 市 長】事務局から何かありますか。

【教 育 部 理 事】はい。今のご意見は幸せ、生き甲斐というダイレクトではなくて、安心という、もうちょっと裾野の広いも言葉に置き換えてはいかがかというご意見かと思いますが。

【石 丸 委 員】よく安心とか安全とか満足とかっていう、そういうウェルビーイングを代替できる、あるいは置き換えられることがあってもいいんじゃないかと。あくまで私の意見ですが。

【伊 豆 市 長】野上委員どうぞ。

【野 上 委 員】この3つ、誰もが楽しく学びという3つあると思うんですけど、1番最後のこの「活躍できる」の中で、地域を担い未来を作る人材の育成っていうのは、この学校生活、学校授業、教育の別にとということですか。あと、誰もがその機会ある環境整備っていうのは、これはその学校の中と、あと別の機会があるということですか。

【教 育 部 理 事】すいません、途中の説明がちょっと簡単すぎて申し訳ございませんでした。この教育大綱が、学校教育分野だけではなくて、いわゆる社会教育ですとか生涯学習、そういった教育、学び、ライフステージ全般を捉えるものでございますので、1つは、その学校に限ったものでないというところがあります。これは国の教育振興基本計画も同様だと思います。これから先、宗像にお住まいの方々を宗像で囲うというようなことは当然政策的にはできないわけですが、それでも、地域を大切に思って、地域を担っていただける方々を育成していく、実際の教育行政の非常に重要な要素であろうと思っております、こういった言葉を入れさせていただいております。ただ、これを全部入れると長々になりますので、活躍という言葉に、込めたということでございます。

【脇 田 委 員】ずっと住みたいまちを宗像市は作るために、教育は何をするのか。非常にわかりやすいと思います。ただわかりやすいっていうだけじゃなくて、何をしなければいけないのかを具体的に示したらどうでしょう。例えば、ふるさとや母校であるという感情を人が抱くときには、そこに住んでいた時間の長さではなくて、そこで出会った人とか、そこで学んだこととか、そういうものから得た温かさやウェルビーイングという言葉で表現できるものや人それぞれの喜びがあってはじめてその感情を抱くそうです。だから、玄海東小学校では、民泊

とかを体験させたんですよ。その時の子どもたちが、地元に戻って来たかは分かりませんが。現在の校長先生たちが、これからこの大綱をどう具現化するのかということそれぞれの学校の実態に応じて、自分たちは、こんな子どもたちを育てるんだ、だからうちの学校ではこんな教育活動をするんだっていうことを語れるようにしてほしい。いや、してほしいじゃなくて、していきたいなと思うわけですよ。期待しています。

【伊豆市長】事務局から何かありますか。

【教育部理事】はい、まさにおっしゃっていただいたとおりで思っております。今まで、この検討の冒頭にもお伝えしていたとおり、教育関連の計画というのは非常に混在をしていて、それぞれの領域、目指す姿、その辺がちよっとわかりにくかったというのがありますので、今回シンプルな形にしようと思っております。

そこで、当然ながら、この教育大綱の基本理念は教育行政の目指す姿のトップに据えるものでございまして、この下に学校の先生方のアクションプランというものを位置付けて、それを年度ごとに検証しながら実行に移していくということを、実行計画として考えております。

この教育大綱をご審議いただきまして、基本理念が固まりましたら、校長会の方にもお示しをして皆さんと共有させていただきますし、次年度のアクションプランは当然この基本理念に基づいたものになってまいりますので、そこで、ぜひ実践をして、校長先生が語っていただけるような形にしていきたいと思っております。ありがとうございます。

【脇田委員】アクションプランを作られるという動きをすごく期待していますが、そのアクションプランを、学校名を見なくても、読んだらこの学校だなんてわかるようなものを作ってほしいと思っております。

都会の小学校とかと同じようなこと書いてあってもダメだから、その学校でしかできないことを校長がどう考えているのかということが、1番ポイントだろうと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひします。

【教育部理事】大変重要なご指摘ありがとうございます。この基本理念に関しては、先ほどもご説明いたしました、また石丸委員から解説していただきましたとおり、この教育大綱の基本理念を目指して、我々が取り組むことによって、10年後の姿としてのこのずっと住みたいまちの実現につながるという立て付けになっておりまして、この基本理念については下に解説を設けさせていただきましたが、これ以外にも、このアンケートで我々が得た重要な示唆というものがこの2つの視点の方に盛り込まれております。

この2つの視点の解説というのがこの紙面では欠けておりますので、教育大綱を刷り物としてパンフレットのような形でまとめましたら、そこには、今ご指摘いただいたとおり、こういったアンケートを経て、皆様方のご意見を踏まえたというこ

とをぜひ加えさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

【伊豆市長】よろしいですか。私は、この宗像市教育大綱がそういう生涯学習、つまり大人の方までも含んだという意味合いがちょっと分かりにくいと思います。どうしても教育大綱っていうと、対象者がやっぱりその義務教育の子どもたちまでというそのイメージを抱きやすいので、その基本理念が9年生までに生き甲斐とか活躍を求めなきゃいけないかと、ずっと思っていたのですが、これが生涯学習、大人も全部という意味合いを含んだというその基本理念であればわかるのですが、そこから辺がちょっとこうわかりにくいと思います。

だから、この教育大綱は全ての宗像市民に向けての教育大綱であるというようなメッセージがあるのか、もしくは、その隣の目指す将来像、これが教育大綱でもいいのかな。こちら側の、要するに、先ほど言われましたけど、世界遺産の海と生きる、ずっと住みたいまち宗像、自然を守り安心を育む、自分らしく挑戦できるとなると、対象者は広く大人までという感じがするんですよね。活躍とか生き甲斐ってというのは大切なんでしょうけど、どうしても行政からのやっぱ押し付けに感じるんですけどね。

【教育部理事】活躍に関しては、全ての方に、活躍を何と取るかもありますが、全ての方に活躍を押し付けるものではなくて、我々行政側にとって、誰もが活躍したいと思った時に活躍できる環境を整えて提供するということをお約束する表明でもあると思っております。

【伊豆市長】基本理念は基本理念として、表に出る言葉はこの目指す将来像のビジョンの方が、より多くの人たちに向けてのはい、メッセージという感じが、こうして宗像らしさも出ていて、その共感を得やすいと思います。

【教育部理事】今、市長が言われたこと、それから石丸委員が言われたことと根底が通じているものだと思います。この教育大綱に基づいて教育施策を進めていくことが、宗像市の将来像に繋がっていくんだということを皆様方に知っていただかなければなりませんので、リーフレット、パンフレットのような形で刷り物にしたいと思っております。その時に、この上位計画である総合計画の目指す将来像につなげていくということは、ぜひわかりやすく説明をしたいと思います。

【石丸委員】幸せや生きがいを感じるのは本人自身であって、それを、教育をする側が言うなよなっていう、つまり、教育、学校関係者や教育委員会は幸せや生きがい実現のためにしっかり取組を進めると覚悟するものであって、そのことをわざわざ表に出すものではないのかなという、だから、そういう感じを持ちました。つまり、これを無視していいわけじゃなくて、これが1番重要なポイントだと思います。その義務教育に限らず生涯学習の観点からも、学ぶ側が結果として、幸せや生き甲斐を感じるというふうにするにはどうしたらいいかという、このストーリーがやっぱり重要じゃないですかね。だから、あなたから言われたくないよっていう、

そういうように捉えられる懸念に鑑みると、総合計画のビジョンの方には、ずっと住みたいというサステナブルな考え方がありますし、さっき言いました安心とかっていうのはウェルビーイング、自分らしいっていうのもウェルビーイングだったから、それをなんとか教育に置き換えるというところで結構尽力されたと思います。

【脇田委員】教育大綱と総合計画を見てみると「〇〇するまち」となっていますが、まちが宗像のまちを作る、まちがまちを作ると見えます。だから、そういう住みたいまちを作るために教育は何をしますよっていう立場で書くとわかりやすいような気がします。だから、総合計画に記載の、教育におけるまち、子育てにおけるまち、市民協働におけるまちが、それぞれの分野で何をするかって考えた方がわかりやすいと思います。

【伊豆市長】私は、目指す将来像のビジョンと基本理念が逆でもいいんじゃないかなと思うんですね。目指すところはこの基本理念、こういうことであるけれども、でも、具体的に理念としてはこの目指す将来像の方が多くの人に伝わりやすいのではないかな。要するに、多くの人って、この先ほど言われたとおり、この教育大綱がその子どもだけじゃなくて、多くの生涯学習も含んでいるという風なことがあれば、この目指す将来像のビジョンの方がより多くの人たちの共感を得やすいし、きつい言葉なんじゃないかな。この基本理念はもう宗像じゃなくてもどこも出してくる、いわゆる行政が出しやすい言葉になっていますよ。だけどこちらの目指すビジョンの方がより新しいかな。

【教育部理事】

先ほど市長のおっしゃった、宗像らしさということに関して言うと、これはビジョンの方が色濃く現れているというのは事実でございまして、総合計画の立て付けとしては、このビジョンの達成に向けて様々な分野において、先ほどの脇田委員のお話にも通じますが、それぞれの分野において、一体何をやるのかと、何をやってこの将来像に近づけるのかという、この何をやるというところがこの分野ごとの目指す姿です。今、教育大綱は、この分野ごとの目指す姿とこの教育大綱における基本理念を一致させようという動きで進めておりますので、何もこの基本理念が教育部における最上位概念であると固定化するつもりはなくて、これらをやることによってビジョンに繋げるということになっていますので、そこは教育大綱を説明する時に必ずセットでお示しをして説明をする必要があるなと思っております。

【伊豆市長】続けて、すいません。目指す姿の分野別のところに、やっぱり子育てもとても大切なので、「子どもの権利が保障され」の後に、ここに安心して言葉が入った方がいいと思います。

【子ども子育て部長】今、令和7年度からスタートします、こども計画を作成している途中です。こども計画の理念も総合計画と一致させるような形で、今作成しているところです。今、市長がおっしゃった安心してというところは、検討させていただき

ます。

【伊豆市長】究極は、宗像の目指すまちというのは、1番短く言うと、安全で安心して住み続けられるまち、定住都市です。ご検討いただきたいと思います。ちなみに、ちょっと話は逸れますけど、宗像市の少年犯罪発生率はずっと2位でしたが、また1位になりました。犯罪発生率の低さがまた1位に復活しましたので、宗像の教育が素晴らしいということはなかなか言いにくいですが、この少年犯罪発生率が低いということは、外部に出してもいいと思います。だから、学校の先生方にも共有していただいてもいいと思います。では、締めめに教育長から。

【教育長】ありがとうございます。今回の宗像市の教育大綱にあたっては、子どもまんなか社会ということが背景にありまして、とにかくこの基本理念については、大人が考えるのではなくて、まず子どもたちの声をしっかり聞いてみようというところから話したところです。それだけじゃなくて、実際にその子どもたちに接している教師、また地域、保護者の声も合わせて、総合的にアンケートを実施してきました。この基本理念を、これから私どもが考えなくてはいけないのは、この概念をいかに砕いていくかという作業があるだろうとっております。

そこで、今日ご提案差し上げたのが、お手元の資料2で、ウェルビーイングの関係の資料があるかと思えます。2ページのちょうどこの真ん中に、教育に関連するウェルビーイングの要素というところがございます。今回、この教育に関するウェルビーイングの要素ということで、国が、自己肯定感、肯定感、心身の健康、それから幸福感、共同性、社会貢献意識、それから、先ほど脇田委員がおっしゃってました学校や地域での繋がり、それから自己実現、キャリア意識等々、それから、石丸委員と市長もおっしゃってました安全、安心。それと、多様性の理解、利他性、サポートを受けられる環境というところ。これらの言葉と、今回ご提案申し上げます教育大綱の基本理念をいかにこう関連させていくかというのが私どもの役割であろうと思っております。

合わせて、実はこれらのウェルビーイングの要素は、今回の全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙の中にもあります。

資料3の4ページでございます。この4ページに、ちょうど表2で、本報告書で用いる変数というところに、幸福感、先ほど申し上げました幸福感や学校や地域での繋がりということで、児童生徒に対する、例えば幸福感でございますと、学校に行くのは楽しいと思えますか、あるいは、普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどのくらいありますかというところがございます。ですから、この楽しく学び、幸せというところは、私どもとしては、この質問紙の項目などで、子どもたちが学校に行くのが楽しい、また学校の中で幸せな気持ちになることがいっぱいあるというところで、この「楽しく学び」とあり、また子どもたちは、社会については、社会の方々については、ちょうど5ページの中ほどに社会貢献意識という項目がご

ざいます。この中に、地域や社会をより良くするために何かしてみたいと思いますかという項目があります。この項目がちょっとでも、児童生徒が高ければ、また大人の方でも何か地域や社会のために区長の役をしていたなど、またそういったところでちょっと数字が高いとなれば、私どもはそこを持って幸せや生き甲斐を感じるというようなことで、今後、指標としていきたいと考えているところでございます。したがって、ここで今回ご提案申し上げましたこの基本理念ということは、この教育に関連するウェルビーイングの要素と関連させながら、私たちもこの理念を、その質問項目と関連させながら、これからの本市の教育活動の改善充実にこう役立てていきたいと、関連付けをしっかりと行っていきたいということで、ぜひこの辺りご理解いただければと思っておりますのでございますが、いかがでしょうか。

【伊豆市長】ウェルビーイングって日本語で直訳するとどういう言葉になりますか。

【教育長】ウェルビーイングは、一般的にはその幸福感ということが挙げられます。ただ、資料の5分の2にありますように、自分に対する幸福感と、もう1つは人のために役立った時の喜びというところがあるかと思っております。ですから、この5分の2のところは、そこをしっかりと分けながら、自分にとって自己肯定感とか心身の健康とか幸福感、自己実現っていうのは自分のことで、それから、共同性や社会貢献意識や学校や地域安心安全、他者への理解というのは人との関わりのことと、どちらがどういう風に伸びていけばいいのかということも合わせて、ここは教育活動の改善充実に努めていきたいと思っておりますので、ぜひともご理解をいただければと思っておりますのでございます。

【伊豆市長】当分はウェルビーイング（自己肯定感とか幸福感）っていうような括弧書きがまだ当分いると思っております。これはいきなりウェルビーイングと言い切るほど、ウェルビーイングに対する認知はまだ高くないので、これは誰もが分かるように、当分は括弧書きでわかるように表示していただいた方がいいと思っております。

それと、学力のところに、読書は好きですかというのが欲しい。

【教育長】今の読書のことがありましたが、今日の提案資料の14ページに幸せだと思ふところで遊ぶっていうところがありまして、それが真ん中にあります。下に友達というのがございまして、その横に本と絵がありますが、本市は、コンクール等でも非常に優秀な成績を収めております。現在、全ての学校についての読書状況調査をしております。読書状況について、本市の1人当たりの読書の量がどういう状況かということをしっかり調べながら、今、好事例を広く集めております。ですから、その好事例を広く集めて、校長研修会等でこの本という文字が、なお一層こう大きくなるように私どもとしてもやっていきたいと思っておりますし、この読者の項目については、今後、教育部で検討して、子どもたちの読書状況について、質問するなど進めていきたいと思っております。

【伊 豆 市 長】友達がいなくても、本が友達でも私はいいいと思います。子どもの頃にその読書をするっていうのを身につけてないと、大人になって、本を読みなさいって言われても、その電子図書とかでは読んだりするし、仕事関係の本を読むけど、広範囲にわたって本を読むっていうのは、身につけてないと読めないっていうところがありますから。結局、最終的に学力っていうのは、語彙力がないと伸びませんから。国語力がないと人が言っていることは理解できないわけですし、自分の語彙が限られた語彙になってしまうので、最終的にはやっぱり語彙力というか語学力、国語力を伸ばす必要があると思います。その基礎を義務教育の間に、宗像の子どもはしっかり身につけていただきたいと思います。

【教 育 長】先ほど申し上げましたように、この教育大綱の基本理念につきましては、この教育に関するウェルビーイングのいくつかの要素としっかり結びつけながら教育活動の改善充実に努めていくという姿勢で私どもは考えておりますので、ぜひともご理解いただければと思います。

【伊 豆 市 長】皆様方の貴重なご意見ありがとうございました。今後の進め方について、事務局から説明お願いいたします。

【教 育 部 理 事】はい。色々のご意見ありがとうございました。先ほど教育長からもありましたとおり、一旦この事務局案をベースに、引き続き進めさせていただきたいと思います。

今後の流れにつきましては、30 ページをご覧ください。本日が10月16日、第1回総合教育会議でございまして、次回、1月15日には教育大綱の完成版に近い形で、ご提示いたしまして、再度ご意見等を賜りたいと思っております。その後、2月には完成予定で、そこに向かって作業を進めてまいりたいと思います。よろしくをお願いいたします。

(3) その他

【伊 豆 市 長】はい。では皆さん、もうこれで第4期宗像市教育大綱についての協議は終わりますが、その他に、せつかくの機会ですから、この案件以外にも何かご意見等がございましたら、ご意見を承ります。よろしいですか、脇田委員。

【脇 田 委 員】ありがとうございます。1つ教えていただきたいのですが、トヨタの働き方改革について教えていただけますか。

【学校整備プロジェクト室長】学校整備プロジェクト室長仁木と申します。トヨタと一緒にした働き方改革の取り組みにつきましては、ご承知の方おられるかもしれませんが、現在、赤間西小学校の方にご協力いただきまして取り組んでいる最中でございます。元々の考え方は、学校の先生方が抱えてらっしゃる児童生徒指導でない部分、事務的な部分、ここをいかに効率化して、先生方のお時間を創出するかということをテーマに取り組んでおりまして、そこにトヨタの改善のノウハウを取り入れることで

業務の効率化を図ろうと考えて、取り組みを開始しています。

現在は、学校の方にトヨタの社員さんがアドバイザーとして入られて、具体の学校の先生方の事務を何点かピックアップして、その見直しをするという作業に入っております。先生方と一緒に取り組みを進めている状況です。例えば放送室という場所がございまして、そちらが非常に乱雑に過去からのものがあつたのですけれども、それを整理することでその機材をより効率よく使えるようにするといった取り組みとか、そういったもので徐々に成果が現れてきているという状況です。この取り組みにつきましては、まずは、年内は学校の方での取り組みを進めさせていただいて、年明けには、一定程度の成果をまたご紹介できればと考えております。以上になります。

【脇田委員】ありがとうございます。しなくてもいいこととか、そういうような発想が、教育現場に入った時に、例えば、地域との関わりとか、子どもたち同士の関わりとか、特別活動という教育活動を学校の先生たちには無駄なことと捉えている人たちもいます。無駄なこと、しなくてもいいものの中にそういうものは入っていないかどうか、そこはちゃんと見てください。よろしくお願いします。

【伊豆市長】メディア等でちょっと切り取られた報道になっておまして、無駄な部分をトヨタ方式でやるっていうことは、子どもとその自動車を一緒にして考えるなというようなご意見も多分上がってくると思いますが、そこはそうじゃないということをきちんと議会にも保護者の皆さんたちにも、校長会などを通じて、決して機械を作るように合理化をするというようなトヨタ方式を導入しているわけではないということをきちんとご説明をいただきたい。切り取られた部分で、トヨタ方式を入れますよっていう目新しい部分だけが報道されているので、誤解を招く懸案でもありますので、丁寧にご説明をいただきたいと思います。

【教育長】この件は、今市長がご指摘のように、校長会でも説明は一旦終えております。どうしてもこのトヨタ方式と3分類14項目というのが、ご理解いただけてないケースがあつて、トヨタによって、特別活動がやらなくてもいいというような理解をされるとなると、それはもう、私はあつてはならないことだと思っています。どちらかというと、整理整頓の清潔、の考え方でしっかりものを決められた場所に置くということと、それから、作業工程がしっかりしているので、体育主任になった、あるいは特別活用主任になった時の4月から3月までにやる内容と、その仕事のルーティンワークをしっかりとしっかり可視化していきましょうということが大きな狙いでもありますので、その辺りをこれからも引き続き、周知を図っていきたいと思います。

【伊豆市長】決して血の通っていないことを学校が現場に導入しようとしているわけではないということを、丁寧にご説明をいただきたいと思います。他にございませんか。よろしいですか。

3 閉会

【伊豆市長】では、以上を持ちまして令和6年度第1回宗像市総合教育会議を閉会いたします。皆様、本日は長時間の会議、お疲れ様でございました。

【全 員】ありがとうございました。